

おぼれる



4歳以下では家庭内の浴槽でおぼれる事故が多く、5歳以上になると屋外での溺水事故が増えます。子どもがおぼれる事故を経験した保護者の8割以上が「悲鳴や助けを求める声が聞こえなかった」とも言われます。おぼれるとき、子どもは声を出さず、静かに沈むのです。たった3cm以上の深さがあれば、乳幼児はおぼれる可能性があります。おぼれてもすぐに引き上げ、その直後から泣いているならほとんど心配ありませんが、反応がないようならすぐに救急車を呼びましょう。



応急処置のポイント

泣かずにぐったり

名前を呼んだり軽く叩いて反応をみましょう



反応がある

水を吐かせる目的で軽く背中を叩きましょう



反応がない

すぐに救急車をよび、胸骨圧迫を行いましょう



呼吸もなく呼びかけても反応がない

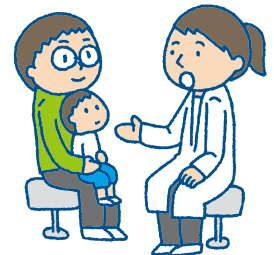
救急車を呼んですぐに心肺蘇生を行いましょう



乾いた衣服に着替えさせたり毛布に包んで保温しましょう



おぼれた場合には救急外来を受診したほうが良いでしょう



事故(傷害)予防のポイント 家庭

浴室に鍵をかけて子どもが入ることができないようにしましょう



おとなが髪を洗っている間は子どもを浴槽から出しましょう



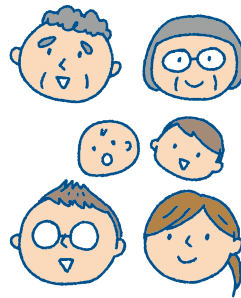
入浴後は浴槽のお湯を抜きましょう



入浴時に浴槽で浮き輪は使わないようにしましょう



小さな子どもの入浴には、なるべく複数の大人が関わるようにしましょう



屋外

ライフジャケットを着用しましょう



川の急な増水に備えるなど事前に気象情報を確認しましょう



実際にあった事例

浴槽用浮き輪による溺水 injury Alert (傷害速報) No.4

母が浴室で洗髪中、浴槽で浮き輪を使用していた9か月男児が浴槽内で溺れた。発見時は反応がなかったが、数分で呼吸が再開。後遺症なく退院した。

主治医からのひとこと